

古文ドリル：「す・さす・しむ」（使役・尊敬）100問

対象：高校生・大学受験生 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「す・さす・しむ」の2用法

「す」「さす」「しむ」は古文の助動詞で、**2つの意味**を持つ。

用法	訳	判別ポイント
① 使役	～させる	動作主が別の人
② 尊敬	お～になる	主語が高貴＋下に尊敬語

接続

- ・ **す**：四段・ナ変・ラ変の **未然形**
- ・ **さす**：その他の **未然形**
- ・ **しむ**：すべての動詞の **未然形**（漢文訓読体が多い）

識別の鉄則

1. **下に尊敬語（給ふ・おはす）＋主語が高貴** → 尊敬の二重敬語
 2. **動作主が別の人** → 使役
 3. **下に尊敬語がない** → ほぼ確実に使役
- 特に「**せたまふ**」「**させたまふ**」「**しめたまふ**」は **二重敬語の典型**。

二重敬語の見分け方

尊敬の二重敬語： - 主語が帝・中宮・親王・摂関大臣など最高位 - 下に「給ふ」「おはす」が続く -
訳：「お～になる」「～なさる」

使役： - 主語が高貴でも、動作主が下の人 - 例：「家臣に書か**せたまふ**」 → 家臣が書く（使役）
→ 文脈で動作主を見極めることが重要。

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 「す／さす／しむ」の直後に尊敬語があるかをまず見る

- ・直後が「給ふ／おはす／たまふ／おはします」→ **尊敬の可能性大**（二重敬語）
- ・直後が **尊敬語以外**（句点・他動詞・接続助詞）→ **使役で確定**「～させる」
- ・これだけで6～7割が片付く。

コツ② 尊敬語が下にあっても 動作主 を見て使役か尊敬か決める

- ・「**せ給ふ／させ給ふ／しめ給ふ**」が出てきたら、**主語＝動作主** か確認
- ・帝・中宮・親王が **自分で** 動作している → **尊敬の二重敬語**「お～になる」
- ・主語は貴人だが、別の人（家臣・女房）に **やらせている** → **使役＋尊敬**
- ・「○○に書か**せ**たまふ」のように「○○に」があれば使役確定。

コツ③ 「しむ」は 漢文訓読体 の合図

- ・「しむ」を見たら出典が **漢文訓読・記録体・軍記** の可能性が高い。
- ・訳語は基本「使役」優先。尊敬の「しむ」は出題例としては稀。

コツ④ 二重敬語が成立する 主語の位置 を覚える

- ・天皇・上皇・院・中宮・東宮 → **二重敬語の対象**
- ・摂関・大臣も対象になるが、文脈で「特別な尊敬」かを判断
- ・一般貴族（中流以下）には二重敬語は使わない → **使役** で訳す

試験本番でのチェック順序

1. 直後に **尊敬語**（給ふ・おはす）があるか確認
 2. なければ → **使役で確定**
 3. あれば主語を見る → **最高位の貴人で自分が動作している** → 尊敬の二重敬語
 4. 「○○に」がある or 主語が動作していない → **使役**（尊敬語は別の人物への敬意）
- この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- ・「**仰せらる**」は「仰す」自体が尊敬語で、その後の「らる」も尊敬。「す・さす」とは別物
- ・「**せ給ふ**」が必ず二重敬語とは限らない → 動作主が別人なら使役＋尊敬
- ・「**しめ給ふ**」は漢文系で出てくる二重敬語。和文ではあまり見ない

- ・「思す（おぼす）」「仰す（おほす）」は一語の尊敬動詞で「す・さす」ではない

採点表

- ・基礎（Q1～Q20）：／20
- ・標準（Q21～Q50）：／30
- ・応用（Q51～Q80）：／30
- ・入試レベル（Q81～Q100）：／20
- ・合計：／100

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

二重敬語の典型／単純使役を識別する基礎問題。

Q1. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

主、家臣に物を取ら**せ**たまふ。

Q2. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御文を書か**せ**たまふ。

Q3. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

中宮、御覧ぜ**させ**たまふ。

Q4. 次の傍線部「しむ」を識別せよ。

子に勉強せ**しむ**。

Q5. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

御代を治め**させ**たまふ。

Q6. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

弟に仕事を仕うまつら**せ**けり。

Q7. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

帝、出で**させ**たまふ。

Q8. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。

親、子に書を学ば**しめ**けり。

Q9. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

中納言、御文書か**せ**たまふ。

Q10. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

主、馬を走ら**せ**たまふ。

Q11. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

神、雨を降ら**せ**たまふ。

Q12. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、嘆か**せ**たまふ。

Q13. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

子を眠ら**せ**たまふ。

Q14. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、御琴弾か**せ**たまふ。

Q15. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

朝廷、僧を召さ**せ**たまふ。

Q16. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

我が君、楽しま**せ**たまふ。

Q17. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

老人、子に仕えまつら**せ**たり。

Q18. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御物の怪に苦しま**せ**たまふ。

Q19. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御階を上ら**せ**たまふ。

Q20. 次の傍線部「さす」を識別せよ。

兄に弟を慰め**さす**。

基礎編 / 20

【第2部】標準編（Q21～Q50）

動作主の判別、敬意の方向、複合動詞下接など。

Q21. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上、女房に歌詠ま**せ**たまふ。

Q22. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

大臣、御車に乗ら**せ**たまふ。

Q23. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

后、御簾を上げ**させ**たまふ。

Q24. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

中宮、御覧ぜ**させ**たまへり。

Q25. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。

帝、群臣をして政を執らしめたまふ。

Q26. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御涙を流させたまふ。

Q27. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

主、舎人に火をともさせたまふ。

Q28. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

院、僧をして経を読ませたまふ。

Q29. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

上、夢覚めさせたまふ。

Q30. 次の傍線部「しむ」を識別せよ。

学を好ましむべし。

Q31. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御物思はせたまふ。

Q32. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

親、子に物言は**せ**つ。

Q33. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、人々を集め**させ**たまひて、酒を飲ま**せ**たまふ。

Q34. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

大将、内裏に参ら**せ**たまふ。

Q35. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

上、笛吹か**せ**たまふ。

Q36. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、人をして文ばこを持た**せ**たまふ。

Q37. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

御簾の内に入ら**せ**たまふ。

Q38. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

后、僧に祈祷せ**させ**たまふ。

Q39. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。

人をして書かしめたまふ。

Q40. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御独言を申させたまふ。

Q41. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

上、楽人に楽奏でさせたまふ。

Q42. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御車寄せさせたまへり。

Q43. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

中宮、御髪梳らせたまふ。

Q44. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

院、御目開けさせたまふ。

Q45. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。

国を治めしめたまふ。

Q46. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

主、馬を引か**せ**けり。

Q47. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上、人を待た**せ**たまふ。

Q48. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

大臣、御簾の外に出で**させ**たまふ。

Q49. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

親、子に文学ば**せ**たまふ。

Q50. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上、もてあそびて笑は**せ**たまふ。

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51～Q80)

文脈で動作主を判定する応用問題、敬意の方向の問い、源氏物語等出典系。

Q51. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、月を愛で**させ**たまふ。

Q52. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、人々をして御遊び始め**させ**たまふ。

Q53. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

中宮、御物語せ**させ**たまふ。

Q54. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝の御使ひに侍り**せ**しに。

Q55. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

帝、御身浄め**させ**たまふ。

Q56. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

母、子の手を引か**せ**つ。

Q57. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。

主君、家臣に城を築か**しめ**たまふ。

Q58. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、御涙さしぐま**せ**たまふ。

Q59. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

大将、人々を呼ば**せ**たまふ。

Q60. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

帝、人をして御文届け**させ**たまふ。

Q61. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

中宮、御涙の浮かば**せ**たまふ。

Q62. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上、御文を取り出ださ**せ**たまふ。

Q63. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、御物の怪に悩ま**せ**たまふ。

Q64. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、若き女房に琴教へ**させ**たまふ。

Q65. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御乳母に若宮を抱か**せ**たまふ。

Q66. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、宴を催さ**せ**たまふ。

Q67. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上、御側近くに召し寄せ**させ**たまふ。

Q68. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

院、御念誦せ**させ**たまふ。

Q69. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

主、童に文届け**させ**たり。

Q70. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

上、御袖を顔に押し当て**させ**たまふ。

Q71. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

国王、神に祈ら**せ**たまふ。

Q72. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

大臣、舞人に舞は**せ**たまふ。

Q73. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

中宮、御消息聞こえ**させ**たまふ。

Q74. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。

帝、近臣をして御使ひに行か**しめ**たまふ。

Q75. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、御簾の内に入ら**せ**たまふ。

Q76. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

中宮、御乳母に童を遊ば**せ**たまふ。

Q77. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

上、御物思ひ晴ら**させ**たまふ。

Q78. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御車に乗り換へ**させ**たまふ。

Q79. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

親王、御涙ぬぐは**せ**たまふ。

Q80. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上、女御を御所に住ま^せたまふ。

応用編 / 30

【第4部】入試レベル (Q81~Q100)

難関大頻出の文脈判定・敬意連動・誤読しやすい問題。

Q81. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上は、いと思しめし嘆か^せたまふ。

Q82. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

御使ひを召して、急ぎ宮中へ参ら^せたまふ。

Q83. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

大臣、御娘を入内^{させ}たまふ。

Q84. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、夜もすがら御文書か^せたまふ。

Q85. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

御乳母、若宮を御湯浴み^{させ}たまふ。

Q86. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

中宮、御乳母をして御文奉ら**せ**たまふ。

Q87. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

いとあはれに思しめさ**せ**たまへり。

Q88. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御位を譲ら**せ**たまひぬ。

Q89. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

大将、人をして御消息伝へ**させ**たまふ。

Q90. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

後の宮、御覧ぜ**させ**おはします。

Q91. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。

帝、貴族をして御階を上ら**しめ**たまふ。

Q92. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、姫君を御膝に乗せ**させ**たまふ。

Q93. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、池の鯉を女房に養は**せ**たまふ。

Q94. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

上、御心地悩ま**せ**たまふ。

Q95. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

帝、御娘の入内を急が**せ**たまふ。

Q96. 次の傍線部「せ」を識別せよ。

院、いみじう泣か**せ**たまふ。

Q97. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

大臣、御所のしつらひ整へ**させ**たまふ。

Q98. 次の傍線部「させ」を識別せよ。

院、家人に御琴のしらべ整へ**させ**たまふ。

Q99. 次の傍線部「しめ」を識別せよ。

国家を平らかに治め**しめ**たまふ。

採点振り返り

セクション	配点	得点
基礎 (Q1～Q20)	20	
標準 (Q21～Q50)	30	
応用 (Q51～Q80)	30	
入試 (Q81～Q100)	20	
合計	100	

- 80点以上：完璧。源氏物語の最高敬語も読める
- 60～79点：標準合格レベル
- 40～59点：基礎は固まっている。応用編を反復
- 39点以下：「せたまふ」「させたまふ」の二重敬語パターンを再確認

あとがき

「す・さす・しむ」識別の核心： - 二重敬語「せたまふ」「させたまふ」は古文の最頻出 - 主語が高貴 + 下に尊敬語 + 動作主が同じ → 尊敬 - 動作主が別人 → 使役（主語が高貴でも！） - 「しめたまふ」は漢文訓読体の最高敬意

源氏物語・枕草子の宮中文学に頻出。これを押さえると、敬語表現が一気にクリアになる。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太